

NEWS LETTER

2021年5月27日

一般財団法人岩手経済研究所

いわて景気ウォッチャー調査 -2021年4月調査- について

一般財団法人岩手経済研究所（理事長：高橋真裕）は、定例の「いわて景気ウォッチャー調査-2021年4月調査-」を実施しました。

本調査の概要は以下のとおりです。

現状判断 44.0

（前回（2021年1月）調査比14.2ポイント上昇）

先行き 42.5

（同7.7ポイント上昇）

本調査の内容は別紙「いわて景気ウォッチャー調査結果 -2021年4月調査-」のとおりです。また、詳しくは5月31日発行の当研究所機関誌「岩手経済研究2021年6月号（No.463）」にも掲載いたします。

2021年5月27日

いわて景気ウォッチャー調査
－2021年4月調査－

盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号
岩手銀行中ノ橋支店3階
一般財団法人 岩手経済研究所
理事長 高橋 真裕
(担当 地域経済調査部 高橋 宏輔)
TEL 019-622-1212

< 調査要領 >

1. 調査内容

- (1) 景気の現状に対する判断
- (2) (1) の理由および具体的状況の説明
- (3) 景気の先行きに対する判断
- (4) (3) の理由

※ (1)、(3) は5段階評価による回答とする。

2. 調査時期

2021年4月

3. 調査対象者・方法

県内の景気の動きを観察できる立場の方々113名への郵送、電話による聴取（内容は下表のとおり）。

分野	調査対象者数	調査対象者の代表的な業種
家計動向関連	78名	-
小売関連	30名	百貨店、スーパー、コンビニ、一般小売店、自動車販売など
飲食関連	18名	飲食店、割烹・料理店、スナック、外食チェーンなど
サービス関連	22名	ホテル・旅館、クリーニング店、ガソリンスタンド、タクシーなど
住宅関連	8名	建設設計事務所、不動産販売、住宅販売など
企業動向関連	25名	製造業、広告代理店、運輸業、農林水産業など
雇用関連	10名	人材派遣、学校就業関係者、求人広告など

地域	調査対象者数	市 町 村
県央地域	40名	盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町
県南地域	44名	花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町
沿岸地域	19名	宮古市、大船渡市、陸前高田市、釜石市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村
県北地域	10名	久慈市、二戸市、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町

4. 回答状況

有効回答数 100件

回収率 88.5%

5. 指数（D I 値）の算出方法

5段階の判断に、それぞれ下表のとおり点数を与え、これらに各判断の構成比（%）を乗じてD I 値（Diffusion Index）を算出する。D I 値は50を目安としており、50を上回っていれば景気の上昇局面、下回っていれば下降局面と判断する。

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+ 1.00	+ 0.75	+ 0.50	+ 0.25	0.00

< 調査結果の要約 >

景況判断は現状、先行きともに50を下回る

1. 現状判断 ～2期連続で50を下回る～

県内の景気の現状判断指数は、44.0と前回(29.8)に比べ14.2ポイント上昇したものの、景況感の分かれ目とされる50を2期連続で下回った。1月に発令された2回目の緊急事態宣言が3月に解除となった影響などから飲食関連やサービス関連で改善がみられたほか、半導体などの需要の高まりを受けた企業の業績が好調なことなどから判断指数は上昇した。一方、新型コロナウイルスの影響が続いていることなどにより、県内の景気ウォッチャーは景気の動きが弱いと感じている(図表1)。

回答構成比は「良くなっている」「やや良くなっている」が23.0%(前回11.0%)、「変わらない」は39.0%(同26.0%)と増加した。一方、「やや悪くなっている」「悪くなっている」が38.0%(同63.0%)と減少した(図表2)。

分野別では、家計動向関連指数が40.6(同25.4)、企業動向関連指数が51.1(同40.2)、雇用関連指数は52.8(同36.1)といずれも前回より上昇した。

家計動向関連では、消費マインドの持ち直しなどを示す回答があった。また、企業動向関連でも業容の拡大を示す回答がみられたほか、雇用関連においても採用意欲に改善の兆しがみられることを指摘する声があった。

地域別では、県央地域が48.5(前回26.4)、県南地域が42.7(同29.6)、沿岸地域が36.1(同34.7)、県北地域が50.0(同33.3)となった(図表5)。

2. 先行き見通し ～先行き判断は12期連続で50を下回る～

2～3カ月先の県内の景気の先行き判断指数は、42.5と前回(34.8)に比べ7.7ポイント上昇したものの、12期連続で50を下回った(図表3)。

回答構成比は「良くなる」「やや良くなる」が20.0%(前回15.0%)、「変わらない」は42.0%(同31.0%)と増加した。一方、「やや悪くなる」「悪くなる」は38.0%(同54.0%)と減少した(図表4)。

分野別では、家計動向関連指数が39.9(同32.0)、企業動向関連指数は51.1(同44.6)、雇用関連指数は41.7(同30.6)となった。

採用活動の活発化のほか、大規模イベントの開催や交通網の整備、ワクチン接種が浸透することによる地域経済への好影響に期待を寄せる声があった。一方、新型コロナウイルスの変異株の拡大と感染者数の増加を不安視する声も聞かれ、3回目の緊急事態宣言が発令されるなど感染拡大に収束の動きが見られないなか、同ウイルスによる県内の景気への影響について注視する必要がある。

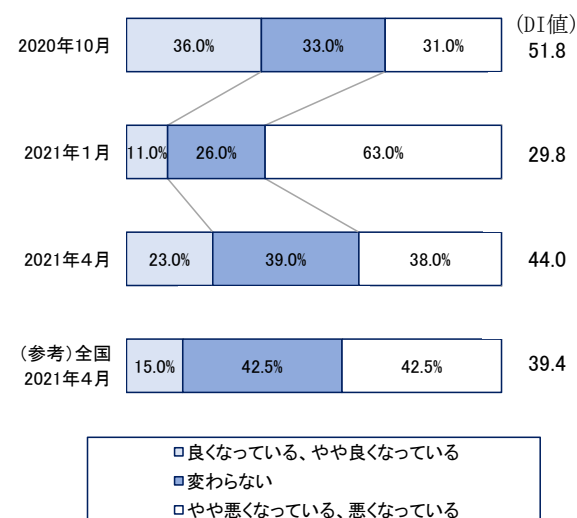
地域別では、県央地域が44.1(前回37.1)、県南地域が40.9(同32.2)、沿岸地域が45.8(同31.9)、県北地域が35.7(同41.7)となった(図表5)。

(ウォッチャーのコメントは後掲の【景気ウォッチャーの主なコメント】を参照ください。)

図表 1 景気の現状判断指数(DI)の内訳

分野	2020年10月	2021年1月	2021年4月	増減
合計	51.8	29.8	44.0	14.2
家計動向関連	54.4	25.4	40.6	15.2
小売関連	51.0	33.9	41.1	7.2
飲食関連	58.3	13.5	41.7	28.2
サービス関連	56.6	11.8	34.7	22.9
住宅関連	53.1	46.9	50.0	3.1
企業動向関連	46.7	40.2	51.1	10.9
雇用関連	44.4	36.1	52.8	16.7

図表 2 回答構成比(現状判断)

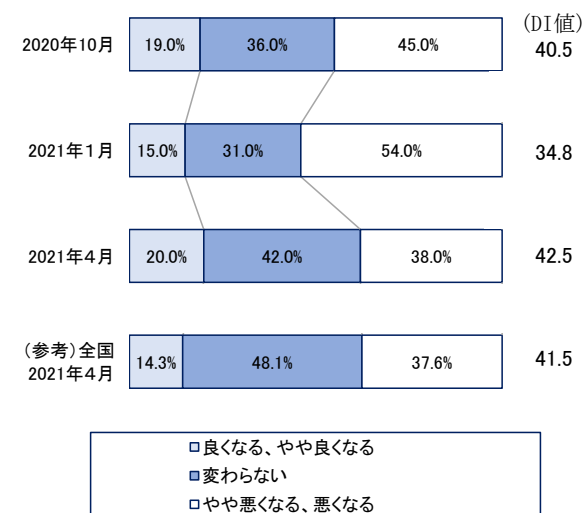


(注)単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表 3 景気の先行き判断指数(DI)の内訳

分野	2020年10月	2021年1月	2021年4月	増減
合計	40.5	34.8	42.5	7.7
家計動向関連	41.5	32.0	39.9	7.9
小売関連	39.4	34.8	38.4	3.6
飲食関連	48.3	19.2	35.0	15.8
サービス関連	39.5	28.9	41.7	12.8
住宅関連	40.6	50.0	50.0	0.0
企業動向関連	40.2	44.6	51.1	6.5
雇用関連	33.3	30.6	41.7	11.1

図表 4 回答構成比(先行き見通し)



(注)単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表 5 地域別の景気判断指数

地域	景気の現状判断指数(DI)				景気の先行き判断指数(DI)			
	2020年10月	2021年1月	2021年4月	増減	2020年10月	2021年1月	2021年4月	増減
合計	51.8	29.8	44.0	14.2	40.5	34.8	42.5	7.7
県央地域	52.7	26.4	48.5	22.1	42.6	37.1	44.1	7.0
県南地域	48.6	29.6	42.7	13.1	41.2	32.2	40.9	8.7
沿岸地域	56.9	34.7	36.1	1.4	36.1	31.9	45.8	13.9
県北地域	50.0	33.3	50.0	16.7	37.5	41.7	35.7	△ 6.0

【景気ウォッチャーの主なコメント】

	分野	判断	判断の理由
現 状	家計 動向 関連	やや良	1月に発令された1都3県を対象とする緊急事態宣言が3月に解除されて徐々に客足が戻ってきた。(県南：飲食業)
		やや良	新型コロナウイルス感染症の対策を万全にしたうえで会議や飲食等の利用が徐々に増えてきた。(県央：ホテル業)
		不変	修理や車検など車両に係る定期的なメンテナンスのために来店する顧客が一定数おり、全体としての売上は変わらない。(県北：自動車整備販売業)
		不変	土地や建物の売買件数、賃貸物件の成約件数はどちらも例年並みだった。(県南：不動産取引業)
		やや悪	テイクアウト需要に期待したものの、注文は伸びなかった。(県央：飲食業)
		やや悪	近隣で同ウイルスの感染者が確認されるたびに客足が止まってしまうサイクルから抜け出せず、売上は不調だった。(沿岸：各種商品小売業)
		悪	特定市町村向けに還元キャンペーンを開催している電子決済システムの利用客が増加したものの、宴会などの予約が振るわず総体での売上は減少した。(沿岸：飲食業)
		悪	飲酒を伴う会食の機会が明らかに減っているため売上の減少に歯止めがかからない。(県央：タクシー業)
	企業 動向 関連	良	世界的な半導体需要の高まりを受け、車に搭載される半導体の受注が例年以上に増加した。(県南：電子部品製造業)
		不変	売上の増減に変動はなかった。(沿岸：金型製造業)
雇用 関連	やや良	1月の求人広告の掲載は皆無だったが、最近では人材派遣関係の求人が掲載され始めた。(県央：新聞求人広告)	
	不変	これまでほとんど開催のなかった対面形式の合同企業説明会が再開しているものの、大きな変化は見られない。(沿岸：学校就業担当)	
先 行 き	家計 動向 関連	やや良	東北デスティネーションキャンペーンや東京オリンピックなどにより外食需要が高まると見込んでいる。(県央：飲食業)
		やや良	宮古盛岡横断道路と三陸沿岸道路の整備や同ウイルスに対するワクチン接種が進むことにより観光客の増加を期待する。(沿岸：サービス業)
		不変	同ウイルスの変異株の感染者が県内でも報告され、イベントの中止や人の流れが止まる状況は続くともみられる。(県南：サービス業)
		不変	ワクチンの接種が進む夏以降には景気が回復するかもしれないが、ここ3カ月くらいでは状況は変わらないものと思われる。(県央：鮮魚卸売業)
		やや悪	同ウイルスの感染者数が増加傾向にあるなど、依然として厳しい状況が続くとみられる。(県央：百貨店)
		やや悪	先日完成した宮古盛岡横断道路に店舗が接していないため、来店客の減少が懸念される。(沿岸：ガソリンスタンド)
		悪	消費マインドが冷え込んでおり、観光の需要はすぐに戻らないとみられる。(県央：ホテル業)
		悪	同ウイルスの影響について、飲食業や宿泊業にスポットが当たることが多いと感じるが、婚礼などに係る業種について今後も厳しい業績が続くとみられることから、現状を踏まえ行政などによる支援をお願いしたい。(県南：貸衣装業)
	企業 動向 関連	やや良	自動車向けの部品の受注増加により売上が伸長することを期待している。(県央：機械製造業)
		不変	業績好転のきっかけが少なく、現在の状況が続くとみられる。(県南：建設業)
雇用 関連	やや良	これまで採用に消極的だった企業が活動を再開する動きが出始めている。(県央：県就業支援担当)	
	不変	昨年度は同ウイルスによる雇用状況の悪化が懸念されたが、1年を通して大きな変化はなかったことから今後も同様に推移するものとみられる。(県南：学校就業担当)	